

2018年4月
1139号

万葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

クオータ制の実現に向けて

～政治分野における男女共同参画の推進に関する法律案が衆議院本会議を可決～

うらかな春日和となった4月22日、若葉の緑が目にも鮮やかに映える中、尾崎行雄記念財団応接室に於いて第53期第6回櫻華塾を開催いたしました。

伊勢桃代先生講演会感想 (3月櫻華塾)

前回3月17日の櫻華塾は、伊勢桃代先生を一冊の会最高顧問にお迎えした記念講演会として拡大し、120名以上の方が憲政記念館会議室に詰めかけました。(詳しくは万葉1137号をご覧ください。)一冊の会の歴史、信念と活動を発表した研究員3人が感想を述べました。抜粋して紹介します。



識字と復興祈念樹について発表 (赤田研究員)

伊勢桃代先生の講演を聴いて、一冊の会は国連中心主義であると再認識致しました。私の職業である保健師の世界では、1人1人を見る目を「虫の目」、高いところから見下ろし社会の構造的な問題を把握するような目を「鳥の目」と表現することがあります。常に世界から社会を見られ、自らの考えを持って世界の為に行動を起こしてきた伊勢先生の目は、あまりに高く人工衛星くらいではないか…と大変感化されました。私も伊勢先生の生き方を目指し、両方の目を持てるよう、一步一步山を登る気持ちで歩んでいきたいと思えます。

IT担当として発表 (山内研究員)

伊勢先生は男性がメインの社会を変えないと世界にも合わない行き詰まりを迎えるとおっしゃっていました、自分の職場を考えても女性が活躍するメリットは計り知れないと感じます。女性だけで女性問題を語ってはいけないという会長の言葉通り、社会が今動いています。男性も女性全ての人々が力を発揮できる社会をつくるため、自分も微力ながら発信し続けていくことを決意しました。身近な例で恐縮ですが、今回出席していた妻と共にお互い共に社会で活躍できる家庭を作ろうと語りあいました。

一冊の会と人権について発表 (城杉研究員)

世界の伊勢桃代先生がおっしゃった日本教育の素晴らしさ。伊勢先生は同時に日本教育に足りない議論する力を養い、相手を理解することが大事とお話されました。議論するという事は自分の考えを持つこと、自分の考えを確立する為には知識だけでなく様々な経験を通じて学ぶことが大切です。櫻華塾では多岐に亘る先生方の講演や大槻会長、石田理事長の講義を通じて常に歴史から「今必要なこと」を学び、自ら考え、行動をする場を頂いております。伊勢先生にお会いする機会は普段無く、この度は伊勢先生より直接国連のお話を直に伺うことが出来ましたこと大変光栄で御座います。民の力、特に女性の力で日本をより良い社会にしていけるようにこれからも勉強を続けて参ります。

小山副会長が「一冊の会は生涯学習。勉強をしていく心、求める心が若さの原点である。3月に発表したことを3人の成長の第1歩として、高い視点を持って励んで欲しい、それを応援していきましょう」とお話されました。

コーヒーアワーに参加して (日本タンザニア友好協会)

4月10日タンザニア連合共和国大使館公邸に於いて「コーヒーアワー」を開催いたしました。12年前の2006年、日本タンザニア友好協会が設立され、その発表式で高田宮妃久子殿下が福島県の三春の滝桜をお手植えされました。一冊の会・日本タンザニア友好協会は、歴代のタンザニア大使と共に「コーヒーアワー」を重ねつつ友好を深めてまいりました。この度チカウエ全権大使閣下、令夫人のお心により春爛漫の季節の開催が決定いたしました。参加したメンバーを代表し、3名から感想の発表がありました。詳細は万葉1138号をご覧ください。

FAWA (アジア太平洋女性連盟) 第23回総会・60周年記念祝賀会について

三坂 FAWA 事務局長から、今年9月にフィリピンにて開催される FAWA (Federation of Asia-Pacific Women's

Associations アジア太平洋女性連盟)について、参加申し込みホームページが開設されたお知らせと、今後の予定の確認がありました。また、前回(2016年)「IEO 国際交流団体」の方が同行しましたが、今回団体として正式に加盟が認められたとの報告がありました。

一冊の会永久最高顧問の相馬雪香先生が1950年にスイスで開催された国際会議に出席した際、フィリピンの上院議員ペクソン女史と出会った事がきっかけとなり、1959年相馬先生と女史が中心となってFAWAの前身「アジア婦人団体連盟」を設立されました。アジアの女性の連帯を通じ、アジアひいては世界の平和の実現、女性の福祉向上を目的としています。設立後は、各国・地域で、FAWA 国際会議を2年ごとに持ち回りで開催しており、今年は第23回、設立60周年の節目です。日程は全日参加で9月26日出発、30日帰国予定です。是非皆様共にフィリピンに行き、相馬先生の意志を継いで友好を深めましょう。

大槻会長から

一冊の会の原点の1つは識字教育です。埼玉の富永さんは鉛筆を淡々と集めて定期的に送って下さいます。忘れないよう、最初にお礼を申し上げます。鉛筆は74カ国に差し上げてきました。タンザニア共和国へ最初に差し上げたのも鉛筆です。タンザニアと言えば、相馬先生が「私もアフリカのタンザニアに行きたい。でも年を考えると無理?」とおっしゃった事がありました。「私が必ずお連れします」とお答えしました。そこで、日本タンザニア友好協会設立時に公邸にお越しいただいた際に「ここはタンザニアです」と申し上げたところ「そうだねえ、ありがとう」とおっしゃった思い出がよみがえってきます。その場に同席の高円宮妃久子殿下も「そうですネ、ここはタンザニア国」とおっしゃり会場が大いに和みました。

先月、伊勢先生を最高顧問としてお迎えした時に、控え室としてこの応接室を使わせていただきましたが、「私この部屋2度目よ」とおっしゃいました。相馬先生がご存命の頃に訪れたことがあるとのことで、石田理事長のことも覚えておいででした。伊勢先生のお話は、世界を思う気持ちがヒシヒシと伝わってきました。また、ふわっとした柔らかい上品な雰囲気広がってきました。伊勢先生は相馬先生を大変に尊敬しておられました。そして、尾崎行雄の精神を本当に受け継いでいるのが相馬先生です。石田理事長と共に、尾崎行雄と相馬雪香の精神を一冊の会はしっかり継いでいきましょう。

さて、今日は1つニュースがあります。4月12日衆議院本会議にて「政治分野における男女共同参画推進法」の法案が可決されました。通称ブルーの本『1946.4.10初の女性参政権行使と日本女性自立への出発』は、1999年11月に発刊いたしました。19ページに山下泰子先生のお言葉があります。「クオータ(割当)制を導入して、候補者の男女比率を決めて、女性の代表の数を確保しようとする政党の出でくることも、期待されます。1946年から50余年をへて、ようやく女性たちに真の政治の季節がやってきているようです。」日本女性が参政権行使をしてから72年。この本の発刊からは20年近く。20年間ずっと同じ主張をし、活動を続けてきたのは一冊の会だけです。ようやく実現に向けて動き出す事に万感の思いと共に、私の母のことを思い出しました。戦後間もない頃、私の母は、園田天光光先生が街頭で演説をしていた所に通りかかったことをきっかけに、天光光先生を応援したそうです。母は、戦前も市川房枝先生を密かに支援しておりました。私はその事を知ったのはずっと後の事で紀平梯子先生から4人でお聞きしました。クオータ制が導入され、男女共に意見を出し合い、より良い社会を作っていくことができるよう、是非国会でしっかり議論して参議院でも可決してもらいたいものです。

石田理事長挨拶

伊勢先生と相馬先生の親交は深く、先月久しぶりにここでお会いしました。一冊の会の最高顧問にお迎えした、素晴らしい講演だった、それで終わりではいけません。今後に活かしていきましょう。

タンザニア大使館でのコーヒーアワーは、今回はビジネスの交流が主に行われましたが、一冊の会・日本タンザニア友好協会が主催することで心の交流になります。平間さんの書、宮田さんの琴、佐藤さんの歌、その音色。そういうものは人の心が伝わります。

FAWAについては、皆さんが自分の言葉で人に説明できるようになって欲しい。20秒~30秒の説明でもよいです。日本ではFAWAは知られていません。相馬雪香がフィリピンの女史と設立した、と言ってもなかなか分からない。難しいことでなくてよいので、FAWAの歴史に一冊の会が日本を代表して参加していることが言えるようになってください。

皆さん、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律案は読みましたか?法案は難しく書いてありますが、第四条は「政党その他の政治団体は」が主語で、最後に述語「自主的に取り組むよう努めるものとする」です。法律は運用されて初めてよい法案といえるのです。形だけで骨抜きになっているものもたくさんあります。引き続き草の根である一冊の会は、関心を持っていかなければなりません。

文責：赤田研究員

